

2017年度
日本付着生物学会シンポジウム

着生機構は どこまで解明されたか？

～化学シグナルからバイオシグナル科学へ～

伏谷着生機構プロジェクト
発足25周年記念

10/21(土)-22(日)

東京海洋大学 白鷹館
(品川キャンパス)

- 参加費
- ① 事前登録 (9月末まで) の方：
一般 4,000円 (学会員は 2,000円)
学生 2,000円 (学会員は 1,000円)
 - ② 当日参加の方：上記プラス 1,000円
- 懇親会費
- 一般 6,000円 / 学生 4,000円
(参加は事前登録の方のみです)
- 問い合わせ先
- 日本付着生物学会事務局 TEL 03-5937-5716
〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5
sosj-post@bunken.co.jp

1991年～1996年に展開され、海洋付着生物幼生の着生現象を主に化学情報伝達の面から探った、伏谷着生機構プロジェクト。その成果は国内外から注目され、その後の着生研究や防汚関連研究に大きな影響を与えてきた。プロジェクト発足から四半世紀が経過した現在、着生機構に関連した多くの研究が様々な分野で進展してきている。本シンポジウムではそれらの中から注目の研究を紹介し、狭義の付着生物研究の枠を超えて今後を展望したい。着生研究に関心のある研究者はもちろん、防汚技術開発に関わる技術者、海洋生物学一般に興味をもつ学生など、多くの方のご参加をお待ちしています。



日本付着生物学会

検索

← 事前登録や詳細は学会HPから

プログラム (詳細版は学会HPからダウンロードできます)

10月21日 (土)

はじめに 13:00-13:20

廣田 洋 (旧伏谷着生機構プロジェクト技術参事)

幼生着生研究の進展 13:20-17:00

Anthony S. Clare 【基調講演】 Settlement and metamorphosis of barnacles (Newcastle Univ.)

サイト・シリル・グレン (長崎大) マガキ幼生の付着過程について

山下桂司 (セシルリサーチ) 光の波長と幼生の行動及び着生分布

清水克彦 (鳥取大) 着生とバイオミネラリゼーション

松村清隆 (北里大) フジツボの着生シグナル

岡野桂樹 (秋田県立大) アカフジツボのキプリス幼生の付着と幼生セメント

懇親会 (天王洲 La Casa NIKI) 18:00-20:00

10月22日 (日)

着生を制御する化学物質とその作用機序 9:00-11:30

沖野龍文 (北海道大) 【基調講演】 付着阻害物質研究の進展

北野克和 (東京農工大) 3-Isocyanothionellinをリード化合物とした付着阻害活性に関する構造-活性相関の考察と新規付着阻害物質の創製

梅澤大樹 (北海道大) 有機合成から着生問題へのアプローチ: 着生機構解明のためのプローブ化を志向した着生阻害天然物の合成研究

中西 剛 (岐阜薬科大) 核内受容体を介した有機スズ化合物の生態影響 ~着生機構への関与の可能性~

新しい手法の導入と着生研究へのヒント 13:00-14:30

笹倉靖徳 (筑波大) 固着により開始されるホヤの変態を司る分子メカニズム

Wong Yue Him The importance of integrating "Omics" approaches (秋田県立大) in the study of fouling organisms

小林元康 (工学院大) 走査フォース顕微鏡を用いたキプリス幼生付着器官の水中凝着力測定

まとめと今後の展望 14:30-14:50

伏谷伸宏 (旧伏谷着生機構プロジェクト総括責任者)